



株式会社四門「森林利用推進室」体制強化のご案内

森林の集約化に関する ソリューションのご提案

株式会社四門 森林利用推進室

令和8年4月8日

体制強化の背景と目的



森林に関する現場の課題

森林経営管理制度の推進や「森林の集約化モデル地域実証事業」において、小規模・分散・境界不明な森林への対応が急務。

所有者不明森林の増加、権利者間の合意形成の難航、法務局等との調整業務の負担が、市町村や協議会の大きな障壁となっている。



体制強化の目的

総合補償コンサルタントとして培ってきた「権利調査」「境界確認」「合意形成」のノウハウを林業分野に特化・展開するため、「森林利用推進室」の体制を強化いたしました。

関係者の負担を軽減し、森林の集積・集約化を加速させる実務的ソリューションを提供します。

森林利用推進室のミッションと強み

ミッション

「調整が必要な業務」を完遂し、森林の価値を次世代へつなぐ。

株式会社四門の強み

「人」と「権利」に向き合う専門性：

単なる技術的測量にとどまらず、複雑に絡み合う権利関係を紐解き、地権者や関係機関との合意形成を導く「調整力」を得意としています。

一気通貫のサポート体制：

調査・測量から、探索、合意形成、行政や法務局等関係機関との協議までをシームレスに対応します。



解決へのアプローチ（全体像・ソリューション①）

提供するソリューションの全体像

当部では、集約化の各フェーズにおいてボトルネックとなる課題に対し、以下の4つのコアソリューションを提供します。

1. 森林集約コーディネート
2. 土地の境界（筆界）の明確化
3. 不明森林所有者の探索
4. 地権者等との合意形成

ソリューション ①

森林集約に関するコーディネート

- 「森林の集約化モデル地域実証事業」等における、協議会及び自治体に対する伴走型コンサルティング。
- 地域特性に応じた最適な「集約化手法」の策定支援。
- 集約化プロセスにおいて発生する諸課題（法務、権利関係、関係者間の調整など）に対する実務的な解決策の提示と実行支援。
- 構想策定から実行フェーズまでのプロジェクトマネジメント。

ソリューション② 土地の境界の明確化

リモートセンシング技術と「調整力」を掛け合わせた実効性のある筆界確定。

アプローチ： 国土調査未了森林等に対し、リモートセンシングデータと公開データ（地物、地形、行政界、植生等）を総合的に勘案し、境界をデザイン。

四門ならではの各段階に応じた課題解決策

- データはあるが境界が不明： データを統合解析し、精度の高い境界推測図を作成。
- 合意形成が得られない： 専門スタッフが権利者の間に立ち、丁寧な説明と調整を実施。
- 法務局との調整ができない： 登記を見据え、法務局をはじめとする関係機関との調整を代行。



解決へのアプローチ（③・④）



③ 不明森林所有者の探索

確実かつ効率的な所有者特定と権利関係の整理。

アプローチ：

- 戸籍・住民票等の公的書類の徹底的な追跡調査。
- 複雑な相続関係、権利関係の確認・整理および相続関係図の作成。
- 柔軟な対応：「所有者が不明ということはない」という強い信念のもと実行。状況や予算に応じ最適な調査レベルを提案。



④ 地権者等との合意形成

森林経営管理制度の運用を前進させる、納得感のある合意形成支援。

アプローチ：

- 経営管理権集積計画の作成を見据えた意向調査の実施。
- 目的やメリットを十分に理解できるように、戸別訪問や説明会を通じた丁寧な説明を実施。
- 将来のトラブルを防ぐ、権利者との確実な合意形成（同意取得）のサポート。

貢献できること



事業のボトルネック解消

境界未確定や所有者不明といった「手戻り」や「停滞」の要因を当部が引き受けることで、自治体担当者様等は本来の施策立案や現場施業の推進に注力できます。



モデル事業の成功確度向上

確実な権利調整と合意形成により、集約化モデル事業における「絵に描いた餅」ではない、実効性のある面的集約を実現します。



次世代への適正な森林継承

曖昧な境界や権利関係をクリアにし、持続可能な林業経営の確固たる基盤を構築します。

株式会社四門「森林利用推進室」は
森林の集約化を通じ
森林利用の推進に貢献します。